

# 横浜市立大曽根小学校 令和3年度 学力向上アクションプラン

## 1 中期学校経営方針

### (1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
「まち」とともに歩み、ともに学び自立できる子ども ○ 自ら課題を見つけ、多様な解決をしていく子 (知) ○ 個性を伸ばし、互いのよさを認め合うことができる子 (徳) ○ 自他の健康や安全に留意できる子 (体) ○ 「まち」を愛する子 (公) ○ 地域、日本、世界に目を向ける子 (開)	〈言語能力〉他者と考えや思いを共有する力 〈問題発見・解決能力〉自分の考えを明確にし、わかりやすく伝える力 〈持続可能な社会の創造に貢献する力〉豊かな人間関係を形成する力

### (2) 中期取組目標

中期取組目標
○「生きる力」を育むために、人権教育を基盤として「誰もが」「安心して」「豊かに」生活できる学校づくりを進める中で、自分を大切にするとともに、周りの人と協調し、他を思いやる心を大切に教育活動を行います。児童理解に基づいた対応を、全教職員の連携のもとに進めていきます。 ○学力の定着に向け、授業力の向上に努めます。 ○保護者・地域と連携・協働して、学習環境の整備を推進します。 ○教職員自身が自己の能力開発やキャリア形成に意欲を持てるようにすることを通して、教職員のキャリアアップを図ります。

### (3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	重点研究テーマ「自ら問いをもって学びを調整し、自信をもって表現する子の育成～問い直すことで思考し続ける姿を目指して～」に向け、研究を深め、授業力の向上に努める。同時に、全ての児童が「思考し続けている」という実感をもつことができる授業づくりを目指し、児童理解に根差した授業を実現できるよう、学年研及び研修を活用する。
担当 重点研推進・評価	

## 2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

令和元年度

学力

生活意識

学習意識

昨年度は、横浜市学力・学習状況調査の実施がなかったが、感染症対策をしながらできる限りの教育活動を実践してきた。

令和元年度の調査を参考にすると、学力については、どの学年も横浜市の平均を超えている。今年度も引き続き基礎的な力の定着や、活用する力をつけるための学習活動の充実に努めていく。

学習意識、生活意識については、全体として、朝食、家庭学習の時間などは市平均よりも高い。また、自己肯定感、達成感、決まりを守る、人の役に立つ、人とかかわりなどの自己意識項目は、前年よりも高まりがみられた。また、「学校の授業がわかりやすい」「学校は安心できる場所」「学校図書館が好き」「外国人の先生とのコミュニケーションが楽しい」など学校生活の意識も向上していた。

学年や教科によるばらつきはあるが、今後も子どもが自分の考えをもち、互いに考えを交流し合うなど、主体的、対話的、深い学びにつながるような、学び合いの場を工夫していく必要がある。

### 3 令和3年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
1年	○感じたことを言葉にする力 ○相手の思いを受け止めて聞く力	・身近なことや経験したことからの気付きを適切な言葉に表せるようにする。	
2年	○他人と関わろうとする姿勢	・互いの話に関心をもって聞き、話題に沿って質問したり、感想を言ったりするようにする。	
3年	○伝える内容を明確にする力 ○相手の立場になって考える力	・目的を意識して日常生活の中から話題を決め、事例や理由を挙げながら構成を考えて話せるようにする。	
4年	○互いの考えの違いを認めようとする姿勢	・相手に伝わるような言葉や表現の仕方を選んだり、互いの意見の共通点や相違点に着目し相手の考えを尊重したりするようにする。	
5年	○他者に的確にわかりやすく伝える力 ○伝え合うことで自分の考えを進化させる力	・自分の立場を明らかにした上で考えを述べ合い、自分の考えをまとめていけるようにする。	
6年	○自分を客観的に捉えようとする姿勢	・目的や意図に応じて自分の考えと人の考えを結び付けて、自分の考えをまとめていけるようにする。	
個別支援学級	○感じたことを言葉にする力 ○相手の思いを受け止めて聞く力 ○他人と関わろうとする姿勢	・身近な人や物の名前、動きや気持ちを表す言葉などについて日常生活の中で活用し身に付けていけるようにする。	